

先人の生き方や考え方、業績などと触れ合うことで、愛郷心をもつとともに、自分とのかかわりを考えていくようにする学習

### 発見、たんけん、まちの先人たち

先人の心に学ぶこと — 4年 —

日時 9月30日(木) 6校時  
 対象 4年 男子24名女子33名計57名  
 指導者 久保紀子 下道順  
 場所 多目的教室

#### <本単元のねらい>

##### 感じる力

ねらい

- ・ 身近なところにある先人の足跡に興味をもち、そのよさを取り入れようとする。

実態

- ・ 盛岡の先人5名について名前は知っているものの、業績などの知識は断片的で浅く、興味は全体に薄い。
- ・ これまでの学習で対象物に関心をもち、自分でできることを考えようとする意識は徐々に育ってきている。

##### 考える力

ねらい

- ・ 先人の残した業績やエピソードをつなげて、その人となりや考え方を想像する。
- ・ 自分の課題解決に必要な資料を選択する。

実態

- ・ 一つの事象について考えることはほとんどの児童ができるが、複数に関連させる見方ができる児童は少ない。
- ・ 自分の課題解決のための資料集めの方法は知っているが、ポイントを絞りきれず、選択に手間取る児童が多い。

#### <実感をもたせる工夫>

- ・ 岩手公園にある石碑から課題作りをすることによって、自分たちのまちの先人であるということを感じられるようにする。
- ・ 毎時間、新しく知ったことをふり返ることによって、よりよく分かるようになったことを実感できるようにする。
- ・ 先人の人となりに着目し、自分の考え方や行動との共通点や相違点を意識して感想をまとめることによって、先人を身近な存在として捉えるようにする。

##### かかわり合う力

ねらい

- ・ 課題解決のために必要な情報を得るために適切な方法を考えて対象に迫る。
- ・ 得た情報を友達と交流することで共有化するとともに、互いの考えの理由まで聞き取り、自分の考えに生かすことができる。

実態

- ・ 具体的な実感を得やすい対象については、適切な方法を考えて課題解決の見通しをもつことができる。
- ・ 友達と情報を交流し感想をもつことはできるが、話し合っただけでまとめることにうまくかかわれない児童も4分の1ほどいる。

##### 表す力

ねらい

- ・ 相手意識をもち、より分かりやすいように発表の組み立てを考える。
- ・ 図を使ったり表に表したりするなど、相手の興味を引くよう、工夫して発信しようとする。

実態

- ・ 型があれば、それに沿って発表内容をまとめることができるが、自ら相手を意識して工夫することが苦手な児童が半数ほどいる。

#### <単元の展開> (時間)

30時間

段階	主たる活動	指導の手立て
(2) 課題をもつ	○ 岩手公園の石碑から、先人の存在や個々の業績に関心をもち、全体の課題をもつ。	・ 前学年の学習内容を生かし、児童になじみの深い公園から学習を始めることで、実感をもたせる。
調べる① (9)	<全員で石川啄木について調べる> ○ 先人読本を読んで感じた人となりをまとめる。 ○ 啄木の業績、人となりやものの考え方が分かるエピソードを見つけたり、作品のいくつかを全員で味わったりする。	・ 先人学習の方法(視点のもち方、調査の仕方、資料選択の観点など)をここで全員共通のものとして学ばせ、それを次の個人学習に生かすようにする。 ・ 先人学習で共通して扱ってほしいことと、対象となる人の特徴をとらえたことの両方を扱う。
調べる② (9)	<グループで新渡戸稲造について調べる> ○ ①で学んだ方法をもとに、調べる分野を選び、稲造について調べる計画を立てる。 ○ 視点ごとに3~5人のグループをつくり調べ学習を進めていく。	・ 前時までの学びの方法を生かして、それぞれの視点(子どもの頃、教育者として、国際的な活躍、作品等)で調べ学習を行う。 ・ 身近なゆかりの地、資料館の見学などは共通体験として行う。
まとめる(2) 本時2/2	○ 個々でわかったことをまとめる。(1)	・ 分かったことの中から、興味をもったことについて詳しく話せるようにする。
	○ グループで分かったことを報告し合い、まとめる。(1) <b>本時</b>	・ 視点が同じ児童のグループとする。
	<b>本時のねらい</b> 新渡戸稲造の素晴らしさについて、自分の考えを、理由を述べて話し合う。(かかわり合う力)	
	<課題>新渡戸稲造がしたことから、その考え方を想像しよう。	
	1. グループごとに分かったことを報告し合い、そこから想像できる新渡戸稲造の考え方をまとめる。 ポイント ・ したことの理由  2. 他の視点で調べたグループの話聞き、新渡戸稲造のよさを広く知る。  3. 自分の感想をまとめ、ふり返りとする。	・ 調べた事実を報告し合い、お互いに質問や感想を通して分かり合うようにする。 ・ 新渡戸稲造の考え方について、理由を述べながら話し合う。 ・ 全体での話し合いの中でも稲造がしたことの理由を意識しながら聞き合うようにさせる。 ・ 一つにまとめることはしないが、似ていることはまとめるようにして、稲造の考え方を見付けさせる。 ・ 新渡戸稲造の素晴らしさ、自分との関わりについて感想をまとめるようにさせる。
(7) 発信する	○ 発信の全体計画を立てる(新渡戸稲造カルタ作りを含む) ○ 発信の準備や練習をする。 ○ 他学年(3年生)への発信を行う。	・ 相手意識をもって発表を組み立て、交流する。(こずかた学習会)
(1) 自分を見つめる	○ 単元全体のふり返りをし、生活に生かしていきたいことについて話し合う。	・ 他の郷土の先人についても触れ、自分で調べてみたいという思いをもたせるようにする。